

関西テラス

Kansai Terrace

サウナはテーマパーク

新話
深談

愛好家「サウナー」が一目置く施設が神戸にある。1954年創業の「神戸サウナ&スパ」は関西のパイオニアだ。運営するジェム社長、米田篤史さん(55)が目指すのはテーマパークのおもてなし。「温泉」「ととのう」「食事」の3つの仕掛けで至極の時間を提供する。



水風呂は阪神大震災が起きた1月17日にちなみ「11.7°C」に設定＝神戸サウナ&スパ提供

3つの仕掛け、熱くもてなす

神戸サウナ&スパは2024年に70周年を迎えた。創業は64年の東京五輪の10年前で、当時サウナは関西だけでなく日本全体でもまじりな感じがなかった。

「サウナパークが夢だった祖父の意向で、幼少期自宅ではロバやジャクなど様々な生き物に囲まれて暮らした。庭にはソウワゲ、自宅からサウナまで歩いて連れて行き、集客に一役買ってくれたと聞く。阪神大震災でビルが被災、再開への原動力は地域住民の復讐だった。

震災が起きた95年1月、東京の小さな商社に勤めていたが、地元へ戻ると、斜めに傾いた自社ビルを自らの当りにした。周辺の建物もほとんどが崩れ、「神戸は終わる」と思った。

退職を決め、事業を立て直すことにした。被災した住民らの声が励みになった。衣食を確保した後、みんなが求めたのはお風呂。このお風呂だと分かった。我々がなんだと認識できた。

震災から復旧までに2年3カ月を要した。以前からのイメージは、床に人が寝ているような「おっさんが終電後に仕方なく来る」ところ。

再建にあたり、震災前の姿ではなく、本物のサービスを追求することにこだわった。長時間リラックスできる「大人のディスプレイ」を掲げた。

■利用料金を平日フリータイムで3100円、土日祝は3500円に設定している。

安くない金額だからこそ、心の通ったおもてなしを心がける。例えば本場フィンランドから宝石と呼ばれる木材の「ケロ材」を仕入れ、サウナの小屋にしている。

■利用料金を平日フリータイムで3100円、土日祝は3500円に設定している。

「サウナ」「水風呂」「外気浴」の流れでリラックスする「ととのう」までもてなすを体験してほしい。ストーブに水をかけて蒸気や体感温度を高める「ロウ

リ」の後、大判のタオルで熱風を循環させるサービースにこだわらない。神戸サウナ&スパはひと味違う。水風呂は震災を忘れないと地震が起きた日にちなみ「11.7°C」と低めに設定。火照った体を冷ますと外気浴する利用者の元々、スタッフが足を運び風をおおぐ。

米田篤史さん「神戸サウナ&スパ」運営、ジェム社長



よねだ・あつし 1969年兵庫県神戸市生まれ。甲南大学経営学部卒業。商社勤務を経て、2005年に「神戸サウナ&スパ」(祖父が創業)を運営するジェム社長に就任。神港みどり幼稚園の理事長を務める。親戚は名古屋と博多でサウナ施設を運営する。

息子と行くカウンターでの食事

最近これがお気に入りです

高校1年と小学6年の2人の息子がいる。時間を見つけて、長男が次男のしごきかと一緒に食事に出掛けるひとときを楽しみにしている。

重要なポイントは「入りきりで行く」「カウンター形式の店を選ぶ」の2つ。対面ではなく、人生経験が豊かな店の大将のトライアングルの関係を作り出すことで、息子の本心を引き出していると思っ

「進学先はどう考えているのか」「お父さんの仕事に興味があるのか」。自宅ではなかなか聞けない話でも、大将の絶妙な合いの手があれば、不思議とできてしまう。お気に入りには神戸市内の割烹かつぽう(居酒屋。おいしい料理と酒の助けも借り、私自身もお父さんも昔はうだったんや」と心を開ききつかけとす。